

# ストラテジ ケーススタディ4

---

## 小田急のIoT活用事例 ワークシート

# 個人ワーク①

鉄道の駅や道の駅等の公共のトイレを使う場合に発生する問題点を、一般的なトイレを利用する場合と、何らかの理由で多目的トイレを利用する場合に分けて挙げなさい(共通する問題点は一般的なトイレの問題点に分類)

種別	問題点
一般的なトイレ	
多目的トイレ	

# 個人ワーク②

個人ワーク①で挙げた問題点の中で、ITを利用することで改善できる可能性があるものを3つ挙げ、それぞれどのようにITを使うかを考えなさい

種別	問題点	IT活用方法

# グループワーク①

- エベレット・ロジャースのイノベーション普及理論で、革新的な商品が普及する要件として5つの優位性

種類	概要
相対的優位性	<ul style="list-style-type: none"><li>● 既存のものより優れていると知覚される度合い</li></ul>
両立可能性	<ul style="list-style-type: none"><li>● 既存の価値観や必要性和と相反しないと知覚される度合い</li><li>● 当面はこれまで使っていたものと併用・両立ができる</li></ul>
複雑性	<ul style="list-style-type: none"><li>● 理解や使用が困難だと知覚される度合い</li><li>● その構造などが理解できないほど複雑ではない、ほど良い複雑さ</li></ul>
試行可能性	<ul style="list-style-type: none"><li>● 試しに経験できる度合い</li><li>● 本格的な導入の前に効果を確認できる</li></ul>
観察可能性	<ul style="list-style-type: none"><li>● 採用して使用した結果が他人の目に触れる度合い</li><li>● 効果が目に見えて観察できる度合い</li></ul>

# グループワーク①

- 「駅の空いてるトイレが分かる」アプリケーションが普及した要因を、イノベーション普及理論の5つの優位性で考えた場合、どのような要因が考えられるか

種類	要因
相対的優位性	
両立可能性	
複雑性	
試行可能性	
観察可能性	

## グループワーク②

- トイレの空き状況は、リアルタイムで表示せず、敢えてトイレが空いてから少しの時間のタイムラグを持たせてから空きの表示をしている
- トイレの前に設置しているデジタルサイネージには、トイレの個室の総数と空き室の数を表示
- 小田急アプリ内では、トイレの個室の数は表示するが、空き室の数は表示せず、「空」、「満」のみを表示



# グループワーク②

---

- トイレの空きをリアルタイムで表示しない理由、小田急アプリではトイレの空き室の数を表示しない理由を考えなさい

項目	理由
空きをリアルタイムで表示しない理由	
アプリではトイレの空き室の数を表示しない理由	